



とっとり

第125号

市議会だより



「イエーイ！パタ足こうげきだ～！」

(7月24日 賀露西浜海岸にて)

目次

6月定例会号

- 6月定例会の概要..... 2 P
- 市政に関する一般質問から..... 3～7 P
- 5月臨時市議会・7月臨時市議会..... 7 P
- 各常任委員会・議会運営委員会の行政視察報告..... 8 P
- トピックス..... 9 P
 - ① 姫路市議会と姉妹都市交流会 ② 市政モニターが本会議を傍聴
- 中学生が議会事務局で職場体験..... 9 P
- 全国市議会議長会特別表彰..... 9 P
- 会派紹介その⑥(市民クラブ)..... 10 P
- 次回定例会の日程..... 10 P

市勢メモ

平成16年7月1日現在

人口計 151,614 人

男 73,291 人

女 78,323 人

世帯数 58,172 世帯

面積 237.20 km²

地域総合整備資金貸付金など

一般会計2億8,699万5千円を追加補正

六月定例会は、六月八日から二十二日までの十五日間の会期で開かれました。

市長提出の「平成十六年度鳥取市一般会計補正予算」など十三議案、議員提出の「地方分権を確立するための真の三位一体改革の実現を求める意見書の提出」など四議案を、原案どおり可決・承認しました。

市長所信

市長は議案審議に先立ち、所信の一端を次のように述べました。(要旨)

市町村合併
今後とも、議会や関係町村との連携のもとに、十一月一日の合併実現に取り組んでいく。



提案説明に立つ竹内市長

合併は最大の行財政改革である。スケールメリットで人件費などの経費節減を図るとともに、より専門的なサービスの提供、効果的・効率的な事務事業を実現できる。

本市は、本年度を「行財政改革の年」と位置付け、新たな行財政改革大綱と実施計画の策定に向けて、プロジェクトチームや市民委員会を設置して取り組みを進める。

合併後の行財政の中期的な展望を踏まえ、質素で効率的なシステム構築・運用を目指し、市職員一丸となって、行財政改革を推進していく。

水道問題

浄水施設の見直しは、検討委員会や水道事業審議会において検討され、議会でも議論が重ねられてきた。またその経過や結論は、できる限りの情報公開と情報提供に努めてきた。

千代川の水道原水を用いたろ過実験の結果では、膜ろ過法が、水質面、クリプト対応面、高濁度水対応面において、十分なる過機能が確認され、緩速ろ過法より優れているというもので

あった。

この結果を受け、膜ろ過の最適なシステムを決定し、今後の水道料金の見直し等を明らかにしたうえで、浄水施設整備に向けて取り組んでいく。

地域の活性化

中心市街地を再び市民生活の重要な拠点として甦らせるには、各種の事業を同時多発的に推進することが効果的である。



期待される中心市街地の活性化

弥生にぎわい拠点整備は、TMOと本通り商店街振興組合が事業主体となり、平成十七年三月のオープンを目指している。

七月には、まちづくりにおける市民と行政の協働を推進する「中心市街地まちづくりプロジェクト」を発足させる。任期付職員採用制度の活用により、新たに「まちづくりプロデューサー」を任命し、積極的な運営に取り組んでいきたい。更に、新規の起業家を対象に

したチャレンジショップ事業を拡充し、空き店舗を利用したにぎわいの創出を図っていく。

また、商店街活性化策として商店連合会が、一割の付加価値の付いた商品券の発売を計画しているが、プレミアム部分の二分の一を市が負担するよう考えている。

観光の振興

今年のしゃんしゃん祭は、四十回目の記念すべき節目にあたり、新企画も多数盛り込んだ盛大な祭りを計画している。

また、大阪事務所を開設し専門職員を配置した。観光客やコンベンション誘致を推進し、関西圏との交流を促進していく。

更に「観光戦略ランドデザイン推進会議」を発足させ、砂丘整備構想の策定や、駅前足湯整備などの重要な課題に、官民が一体となって取り組む体制を整備した。

観光客倍増を目指す「交流都市・鳥取」の実現に向け、戦略的な取り組みを推進していく。

補正予算

一般会計

一般会計では、地域総合整備資金貸付金、プレミアム付き商品券発行事業、チャレンジショップ運営費、市町村合併記念式典費、鬼太鼓座(おんこざ)コンサート開催費などに、

総額二億八千六百九十九万五千円を補正しました。

なお、去る三月定例会で一部執行を保留する旨の付言がなされていた「市民百人委員会」の予算は、委員数減員や委員報酬減額により、百三十二万九千円の減額となりました。

補正後の予算規模は、六百七億四千二百九十九万五千円となり、前年度六月補正後に対して、五・二%の減となりました。

特別会計・企業会計

特別会計では、老人保健費特別会計で、十五年度老人医療費清算による返還金として、一億四千五百二十二万三千円を補正しました。

企業会計では、水道事業会計で、合併に伴う庁内LAN等の整備、水道事業長期経営構想策定業務に、一千七百三十六万四千円を補正しました。

条例関係

条例関係では、公の施設の指定管理者を指定する場合の通則的な事項を定める「鳥取市公の施設に係る指定管理者の指定手続等に関する条例の制定」、審査会等へ虚偽の報告をした者に対する罰金を引き上げる「鳥取市議会の議員等の公務災害補償等に関する条例の一部改正」など六件を原案どおり可決しました。

市政に関する一般質問から

今期定例会の一般質問は、六月十日から十六日まで、休会日を除く五日間にわたり、二十七人の議員により行われました。今号では、各議員の質問の中からそれぞれ一項目について質問・答弁の要旨を掲載しています。なお、議事録の全文は、市議会のホームページで閲覧できますのでご利用ください。

山崎健一議員（公明党）

合併後の農林業振興策

質問 合併後の新市は農林業都市となる。農政に詳しい町村職員登用により、農林業振興に向けた組織機能の強化・充実が必要であると考えるが、どのように取り組むのか。

市長 新市の農林業振興に対応できる適切な組織体制の充実を図っていききたい。このため、地域の実情に精通し豊富な経験を有する職員を、本庁と総合支所に配置することを考えている。

これによって、各地域の特性などを生かした農林業振興が図られると考える。なお、現在の組織は、商工農林水産部としていますが、条例を改正して農林水産部として独立させることを検討している。

橋尾泰博議員（新政会）

変電所計画の市長所見

質問 二年前、変電所が本町に計画された際には、不適當な場

所と明確に反対表明した市長が、今回の片原の計画では、中立的・客観的な立場と発表した。この心境の変化の真意は何か。



変電所が計画されている中電片原ビル

市長 本町の場所は、中心市街地活性化基本計画で広域交流拠点に位置づけられており、適当でないと判断していた。現計画は、そうした観点が適用できる状況ではないと考える。その意味で、まちづくりの観点から問題があるとかないとか判断して申し上げるといふことにはならない。事業者が、地域住民の皆さんに十分な説明をして、不安の解消に努めていただきたいと考えている。

吉田博幸議員（新政会）

市営住宅等の木材使用

質問 県では、智頭の緑が丘団地で柱や内装材に智頭材を使っている。本市の市営住宅等における木造建築への取り組み方針はどうなっているのか。

市長 保育所や低層公営住宅など木造建築が可能なものは、できるだけ木造で建築を行っていききたい。また、耐火構造が要求される学校や中高層の市営住宅では、内装材として積極的に木材を活用したい。また、工事発注に際して、地産地消計画書を請負業者に求めることにしており、木材など地元の材料の利用を推進している。これは、試行的・モデル的に幾つかの工事で取り組んでいるものである。

国富三郎議員（新政会）

鳥取若者プロデュース事業

質問 鳥取を活性化させるために、若者たちが自由な発想で企

画・実施するまちづくりのイベント等に対し、資金面等で援助する鳥取若者プロデュース事業を創設してはどうか。

市長 まちづくりにかかる創造的な活動は、若者に限らずいろいろな団体に取り組んでいただきたいと考える。このために、市民活動促進助成金や、街中まちづくり市民活動促進事業補助金の制度により、いろいろな市民団体が活動する上で、資金的にも援助や応援をしていきたい。また、アクティブ鳥取や、きんせ鳥取など、こうした場所を活動の拠点として活用していただきたいと思っている。

武田えみ子議員（公明党）

旧ダイエー一階の窓口業務



旧ダイエー鳥取駅南店

質問 旧ダイエー駅南店の一階は、市民サービス部門を配置しワンフロア、ワンストップサービスを目指すとのことだが、市

市長提出議案

可決・承認されたもの

* 六月定例会*

第64号 16年度鳥取市一般会計補正予算(第1号)

第65号 16年度鳥取市老人保健費特別会計補正予算(第1号)

第66号 16年度鳥取市水道事業会計補正予算(第1号)

第67号 鳥取市の公の施設に係る指定管理者の指定の手續等に関する条例の制定

第68号 鳥取市議会の議員等の公務災害補償等に関する条例の一部改正

第69号 鳥取市税条例の一部改正

第70号 鳥取市手数料条例の一部改正

第71号 鳥取市簡易水道事業給水条例の一部改正

第72号 鳥取市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部改正

第73号 鳥取市営土地改良事業の変更

第74号 76号 専決処分事項の報告及び承認

議員提出議案

可決されたもの

第9号 地方分権を確立するための真の三位一体

民にとつて、本当に便利なサービス
の提供ができるのか。

市長 駅南庁舎に行けば窓口がそこに存在しているという形にしたい。窓口業務を固めるだけではなく、関連の深いところを近くに配置するとか、人間の動線を考えて配置を考えたい。市民課等では、窓口カウンターの前に市民に座っていただくことも考えている。さらに、配置しない課の業務については、取り次ぎの受け入れ窓口設置を考えており、ワンストップサービスの徹底を図っていきたい。

秋口政俊議員 (こころ風)

合併後の地域づくり



地域の活性化のためには？

質問 合併後の行政を考えると、自治体を構成する地域社会や住民生活の変化に対応した施策が必要である。地域づくりの根源は地域力の強化にあると考

えるが、市長の所見を伺う。

市長 生き生きと暮らせる地域づくりのためには、生活の場である地域の活動を活発にしていくな必要がある。このため、地域コミュニティ活動支援制度の創設を予定しており、さまざまな活動に対して支援をしていきたい。合併で市町村は一つになるが、もともとある地域コミュニティ、共同体、集落、公民館単位の活動を盛んにしていくことが、地域が活性化し、その地域の生活環境や伝統が守られる方法であると考える。

田村繁己議員 (公明党)

介護保険の委任払い

質問 介護保険で福祉用具購入や住宅改修をした場合、市の支給分は償還払いであり、約二カ月後となる。在宅サービスの充実を図るうえで、受領委任払い方式を導入する考えはないか。

市長 介護保険法は、償還払いを原則にしている。県内で受領委任払いの市町村はないが、全国的には採用している自治体もあるということである。要支援や要介護の方の住宅改修、あるいは保険外の福祉サービスである高齢者住宅環境整備事業については、利用が大幅に伸びている。このため、今後ニーズの動向や運用上の課題・問題点を十

分考慮した上で、ご提案の方式の導入を検討していきたい。

河越良二議員 (こころ風)

教育プラン策定の必要性

質問 教育要覧を見る限り、本市には教育プランと呼べるものがない。基本理念や構想、方針や目標など、五年・十年先を視野に入れた鳥取らしさのできるプランを考えるべきではないか。



子どもたちの未来のために

教育長 平素より、人が生きがいを持ち、生きることの喜びを感じる鳥取市を築き上げていかなければと考えている。そして、人づくりや地域社会づくりは教育に負うところが大きいと考えている。したがって、今こそ教育にさまざまな力を費やさなければならぬ。そこで、教育委員会としても、まず来年度より新市の教育ビジョン策定に取りかかり、具体的な施策や取り組みにつなげていきたい。

谷口秀夫議員 (公明党)

健康寿命の延伸策

質問 介護保険制度が始まって五年で、全認定者数は一・五倍となりわけ要支援・要介護一は一・七倍に増加している。健康寿命を伸ばすために、新たな介護予防施策が必要ではないか。

市長 早期発見・早期治療の二次予防から、生活習慣病の発病を予防する一次予防に力を入れ幅広く健康寿命の延伸を図っていききたい。介護予防事業の効果は総合的、継続的に行つてこそ効果があがる。施策の評価は、十七年の「元気プラン」見直しに先立つてのアンケート調査を予定している。取り組みの成果を明らかにし、その時点で十分評価し、次にどういふことをやるべきかを検討していきたい。

佐々木紘一議員 (市民ク)

指定管理者制度の導入

質問 指定管理者制度で、公の施設の管理を民間に委任できるようにになった。それぞれの施設を、直営管理にするのか指定管理者にするのかといった選定方法をどう考えているのか。

市長 まず主管課で業務内容や管理運営費等の調査を行い、内容を集約したい。その結果をも

陳情と結果

採択となったもの

緊急地域雇用創出特別交付金の継続・改善を求める意見書提出についての陳情

(西町 植谷 和則)

国の財政再建優先の「三位一体改革」でなく、地方分権のための地方税財政改革を進める意見書提出を求める陳情

(西町 植谷 和則)

人工肛門・人工膀胱・保育者補装具自己負担全額助成を求める陳情

(岩美町 澤 重則)

日本統治下のハンセン病施策犠牲者に対するハンセン病補償法適用に関する意見書提出を求める陳情

(倉吉市 池原 正雄)

趣旨採択となったもの
清潔で公正・公平な国民奉仕を貫く公務員制度の確立

第10号 改革の実現を求める意見書の提出

第11号 農政の改革に関する意見書の提出

第12号 日本統治下のハンセン病施策犠牲者に対するハンセン病補償法適用を求める意見書の提出

緊急地域雇用創出特別交付金の継続・改善を求める意見書の提出

とに、行財政改革の検討の中で、直管がいいのか指定管理者制度でいくのかの方向性を出していきたい。また、指定管理者を公募にかけるものは、広く周知を図っていききたい。どういう振り分けをしたかは、市民へ情報提供したいと考えており、具体的な情報公開や意見聴取の仕組みを現在検討している。

村口英子議員（共産党）

東郷地区と前市長との約束



神谷清掃工場（西今在家）

質問 前市長は「新しい焼却施設は東郷谷にはつくらない」と地元で約束している。にもかかわらず、昨年、市長は地元で打診に訪れている。今の市長の認識として、どう考えているのか。
市長 私は、東郷地区との信頼関係が大切だと思っている。これまで、地元からの要望については、できる限り誠意をもってこたえる努力をしてきたと思うし、改めてこれからもそうい

う関係を築いていきたい。この問題は、委員会をつくって検討を始めている初期的な段階であるが、やはり改めてしっかりと考えていかなければならない。今は、そういう状況にあると認識している。

森田紘一郎議員（市民ク）

固定資産税の軽減措置

質問 地方の景気は一向に改善がみられない。中心商業地の活性化策として、固定資産税の軽減が考えられる。時限的に負担水準の引き下げを行うなど弾力的な運用ができないか。

市長 国の三位一体改革による税源移譲が不十分であり、地方の財源が従来どおり確保できない事態を迎えている。本市独自の貴重な自主財源については、その確保に努力していかなければならない。軽減措置のある自治体は全国で四団体あるが、例外的なものである。中心市街地においては、さまざまな財政的資金を投入してまちづくりに努力している。こうした点を考え合わせると、特別な軽減については慎重にすべきと考える。

松田重実議員（こころ風）

食農教育の重要性

質問 日本の教育は、知育、徳

育、体育の基本理念で成り立っている。さらに、学校教育の中に食農教育を導入することにより、より豊かな教育効果が得られると考えるが。



農業体験を通じて

教育長 食農教育とは、農業体験等を通じて、命への畏敬の念や勤労の大切さ、感謝する心をはぐくむ大切な教育活動の一つである。生命の成長を科学的に捉え、作物を大切にし、さらには大切にいただくという気持ちがある。どこまで子どもの心に根づいているかが重要である。そのため、単なるイベント的な体験に終わらせるのではなく、子ども自身が準備にかかわり、事前学習をしたうえで、本物の体験に近づけるようにと考えている。

村山洋一議員（新政会）

合併に伴う人事異動方針

質問 合併に伴う組織体制の整備では、市町村職員の一体化と

役職等の処遇問題などが重要である。人事異動の基本的な考え方や異動時期についてどう考えているのか伺う。

市長 新市の業務を円滑に進めていく上で、職員の意識の一体化は大きな要素である。合併後は、可能な限り本庁と総合支所間の人事交流を図っていききたい。具体的な考え方としては、十一月一日の異動発令については、一カ月前に内示を行うこと。町村職員の勤務地については、自己申告により本人の希望を確認すること。町村職員の異動は各町村長の意向を踏まえて決定すること。以上三点の方針を進めたい。

寺垣健二議員（改革ク）

クリプト感染リスクの数値化

質問 危機管理の必要性は認めるものの、水道事業管理者は浄水場建設の立場から、クリプトの感染リスクを市民に公表する責任がある。そのリスクを数値であらわしていただきたい。

水道事業管理者 水道水の安全性とは、どうなれば病人が何人出るかといった問題ではなく、信頼性を損なわないよう万全な体制で水道水を供給することである。厚生労働省作成の暫定対策指針に関する質疑・回答集は、クリプトの感染リスクを常時水

を求める意見書提出についての陳情

（西町 村口 徳康）
民主的な公務員制度改革を求める陳情
（南町 中田 博明）

一部採択となったもの
江山浄水場建設についての陳情
（戒町 渡辺 光子）

水質汚濁の事前防止と水環境に関する陳情
（古海 栗山 英雄）

不採択となったもの

被爆者援護法の改正に関する意見書提出を求める陳情
（米子市 細砂 直）
鳥取市水道局の浄水実験に関する陳情
（吉方温泉 秋田 忠）

国道29号南バイパス高架沿いの防護壁（防音壁）設置についての陳情
（緑ヶ丘 西尾 里子）
年金課税強化の撤回を求める意見書提出についての陳情
（天神町 松崎 博司）

一部不採択となったもの
江山浄水場建設についての陳情
（戒町 渡辺 光子）
水質汚濁の事前防止と水環境に関する陳情
（古海 栗山 英雄）

質検査によって確認し続けることは非現実的であり、常に運転管理に注意を払い、間違いのない浄水処理をすることが求められると結んでいる。

上田孝春議員 (民世会)

合併後の公共施設適正配置

質問 各町村には同様の公共施設が数多くあるが、地域全体の均衡ある発展のためには、これらの適正配置は重要な課題である。基本的な考え方、認識を市長・教育長に尋ねる。

市長 そこにその施設があるのはそれなりの必然性がある。現状を十分踏まえ、新市まちづくり計画に明記されているとおり、市民サービスの確保と地域のバランスの観点から適正に配置をしていきたい。

教育長 教育関係施設も、地域の利便性を配慮し、適切に維持管理すべきと考える。学校、図書館、体育館などは住民と直結しており、既に計画されているものを除き、現時点で整理統合は考えていない。

両川洋々議員 (民世会)

谷口ジロー先生とジゲ起こし

質問 鳥取市出身の国際的漫画家、谷口ジロー先生の漫画を活用したジゲ起こしができない

か。昨年、市長は先生と対談して夢を語られたが、その後の取り組みと成果はどうか。

市長 地域の活性化に谷口さんの活動を生かしたいという思いがあり、プロジェクトチームをつくって検討している。対談を契機に、尾崎放哉シンポジウムのポスターでご協力いただいたが、さらに、鳥取をテーマにした新作のお願い、原画展や漫画教室の開催を相談している。谷口さんご自身が大変多忙な方であり、具体的な取り組みにおいては、ご本人の意思を十分尊重しながら進めていきたい。



作品を執筆中の谷口ジロー氏

藤原繁義議員 (民世会)

営農組織・生産法人の育成

質問 二十一世紀の農業の発展を図るには、集落営農や生産法人組織の確立が重要である。達成目標に数値を挙げ、また、市役所内に推進チームを設けて積極的に推進すべきではないか。

市長 数値目標の設定や重点支援地域の指定などは有効な手段として思う。当面は、こうした集落営農組織等に関する情報提供を広く行い、農協等とも十分連携を図りながら、組織の設立を図りたいと考えている。推進体制については、農林水産業を一つの部とする体制づくりを考えている。生産組織を担当する内

部組織は、まだ具体的に詰めてはいないが、あわせて検討していきたい。

山下武雄議員 (新政会)

情報公開の範囲拡大

質問 情報公開条例の目的と精神を生かし、公正で開かれた市政を推進すべきである。このため、行政文書以外の市政全般において、原則的に公開・開示の方向としてはどうか。

市長 情報公開は、特に市民参画や市民と行政の協働といった観点から大変重要なことと考える。審議会の会議等の情報公開については、公開実施要領を定め、これにより原則公開とするルールにしている。情報公開は今後さらに強化していきたいと考えており、例えば予算編成についても、検討・準備を進めているところである。今後もやるべきものがあれば、積極的に取り組んでいきたい。

鶴巻 順議員 (こう風)

助役二名制の時期と役割

質問 合併を控え、市長が必要と考える助役二名制スタートの時期をどう考えているのか。また、もしその体制になるとするならば、具体的にどのような役割分担を考えているのか。

市長 合併を控えて、九月議会での提案を一応念頭に置いている。就任時期は、最終的には提案の段階で明らかにしたい。役割として、合併に伴う総合支所の統括や新規の本庁業務の機能充実の業務がある。さらに、新たに推進するものとしては、行財政改革の推進、まちづくり計画の策定や実施の業務があげられる。こうした業務も含めて課題を分担し、具体的に整理していくことにしたい。

高見則夫議員 (新政会)

小規模校の特別転入制度

質問 中山間地の小規模校の児童・生徒数減少に伴い、本市は通学区域を超えた転入学を認める制度を検討されている。画期的な教育改革制度と評価するが、その見通しを尋ねる。

教育長 今後、中山間地では一学年の児童数が五名前後に減少し、複式学級だけでなく、存続

自体が危惧されかねない小学校がでてくる。地域の拠点、地域の誇りでもある小学校を今後も存続し、地域全体の活性化につなげたいと考え、小規模特別転入制度の導入を推進委員会で検討している。見通しとしては、市民に広く周知した上で希望者を募り、十七年度の新学期より実施したいと考えている。

桑田達也議員 (公明党)

ごみ処理政策の転換

質問 焼却炉依存型から脱却し、具体的な数値目標でごみをゼロにしていく「ゼロウェイスト宣言」を行ってはどうか。達成年度を明確にし、排出量削減への積極的なプランを検討しては。



ごみ問題への対応は？

市長 ごみの減量化は強力に推進したい。ただ、現状では処理計画の遂行も大きな目標であり、適切な施設の整備が必要と考えられる。ごみ問題は、地域の実情に応じてというのが私の基本的な

認識である。ごみはそもそも人間が出しているものである。一人一人の努力の積み重ねで減量化を強力に推進し、あわせて需要予測に応じた適切な処理体制も整備していくことが、現状の課題だと考えている。

谷口 満議員（改革ク）

指導力不足教員の認定制度

質問 指導力不足教員の認定制度は、本来の趣旨である再研修・職場復帰より、教育現場か

五月臨時市議会

県東部十市町村合併のための臨時市議会が開催され、次の議案が原案のとおり可決されました。

【五月十日（月）】

鳥取県東部九市町村合併協議会を設置する普通地方公共団体の数の増加及び鳥取県東部九市町村合併協議会規約の変更について

【五月十七日（月）】

廃置分合について
廃置分合に伴う財産処分に関する協議について
廃置分合に伴う経過措置に関する協議について
地域審議会の設置に関する協議について

七月臨時市議会

智頭町議会の合併議案否決に伴い、県東部九市町村合併のための臨時市議会が開かれ、改めて次の議案が原案のとおり可決されました。なお、十五日までに、九市町村の全ての議会で同様の議決が行われました。

【七月十二日（月）】

鳥取県東部九市町村合併協議会の設置について

【七月十三日（火）】

廃置分合について
廃置分合に伴う財産処分に関する協議について
廃置分合に伴う経過措置に関する協議について
地域審議会の設置に関する協議について

ら問題教師を放逐する機能を果たしてはいないか。この制度に対する教育長の所見を尋ねる。

教育長 無断欠勤などの職務怠慢や信用失墜行為には、厳しい責任追及が当然であるが、指導力不足教員には、指導力を回復する適切な処遇が必要だと思っている。その意味から、早急に指導力を回復する方策としてこの制度を評価している。指導力不足を長期間放置するのは、教育に対する信頼を失うものであり断じて許されない。認定の有り

無にかかわらず、すべての教職員の指導力の向上に努めてまいりたい。

入江順子議員（こころ風）

文化・芸術のまちづくり

質問 合併でともに歩む町村にとつて、自分のまちの文化はいつまでも大切にしたいと願っている。お互いの文化や芸術を認め合い、守り育てることが真のつながりとなると考えるが、市長 合併に当たっては、地域の個性を大切にすることを理念の一つに掲げている。文化や芸術、伝統といったものを、ぜひとも地域の個性として大切にしていきたい、守り育てていきたいと考えている。今年度には、文化や芸術振興のための基本方針を取りまとめることにしている。合併する町村の文化団体代表者も一緒になって委員会を構成し、振興策を取りまとめていきたい。

中西照典議員（こころ風）

IT化推進と体制強化

質問 情報政策課の職員八名のうち、専門的知識をもってシステム全般のトラブルに対応できるのは一名とのことである。この現状で、合併後のIT化が推進できるのか。

市長 現在、チームワークで協力しながらシステムの維持管理がなされている。合併後の本市の情報化には、電子自治体といった課題もあり、IT化の推進とその体制強化は大変重要である。そのため、システムについて専門的、技術的知識をもった職員を確保、養成していくことが必要であると考えている。合併を通じて、町村職員も含めて、一緒になって推進体制の強化を図っていきたい。



第2庁舎内にあるサーバー機器類

角谷敏男議員（共産党）

変電所に対する不安解消

質問 市長は、電磁界への住民不安に対し、客観的な情報収集とシンポジウム等による市民への情報提供を行うと述べている。しかし、それで住民の不安が解消できると考えているのか。市長 電磁界の人体への影響については、科学的に研究されて

いるが、現段階では明確な結論がでていない。行政としては、賛成、反対と一方に偏ることなく、中立的な立場で客観的な情報を収集し、住民に提供することが大事な責任である。シンポジウムはそうした客観的な情報を伝える一つの機会になると考える。住民の皆さんは、客観的な事実を知りたいという気持ちだと思つので、それに答えるよう検討を進めている。

森本正行議員（こころ風）

無年金となる制度的問題

質問 現行の年金制度には、非常に多くの問題がある。本市において年金受給年齢に達しているにもかかわらず、年金が受けられない方は何人いるのか。そして、その理由は何か。福祉保健部長 実数を社会保険事務所へ照会したが、統計資料整備ができておらず確認できなかった。無年金理由を制度的な問題で言うと、①共同連帯意識の希薄さ、②申請免除制度の周知不足、③年金切り替えの届出が個人任せで、未加入期間発生の原因となる、④未納・未加入期間の遡及適用が二年間と短く、受給資格に届かない場合が生じる、⑤強制加入といえないながら届出主義で徹底ができない、といったことが考えられる。

総務委員会



浜松市での視察状況

期日 四月二十六日①、二十八日②
参加者 村山、武田、藤原、河越、橋尾、森田、秋口、中西

視察先 ①宇都宮市②浜松市

〔視察状況〕

宇都宮市では、人事評価制度

企画福祉委員会



鯖江市での視察状況

期日 五月十七日①、十九日②
参加者 国富、谷口(満)、村口、三谷、本多、両川、入江、田村
視察先 ①鯖江市②高岡市

文教経済委員会



高崎市での視察状況

期日 五月二十五日①、二十七日②
参加者 山崎、角谷、佐々木、福田、吉田、松田、桑田、鶴巻

視察先 ①長野市②高崎市
〔視察状況〕

長野市では、「指定管理者制度」を早期に制定しており、現状の課題や問題点について視察しました。

また長野市内にある「(社)長野県農業担い手育成基金」を訪問し、農家の担い手確保のための先進的な取り組みである里親制度や各種助成の状況を視察しました。

高崎市では、総合運動施設を有する「サンピア高崎」を訪問し、総合アリーナ・スケートリンクの現状や問題点、維持管理等について視察しました。

視察先 ①千葉市②横浜市、綾瀬市
〔視察状況〕

千葉市では、「新港クリーンエネルギーセンター」を視察しました。ごみ焼却で発電して工場内で利用するほか、余剰電力を電力会社等に売電するなど、廃棄物をエネルギー資源として最大限に活用する施設を調査しました。

横浜市と綾瀬市では、両市の浄水場内で「(財)水道技術研究センター」が実施する大規模膜ろ過技術実証実験のようすを視察し、ろ過技術に関する研究成果などを調査しました。

各常任委員会の行政視察報告

〔視察状況〕

鯖江市では、地場産業のものづくりを主題に、「元気なまちづくり」を目指す「鯖江ファッショントウン計画」と、PFI方式によるケアハウスなどの福祉複合施設整備事業の取り組みを視察しました。

高岡市では、若者たちが企画するイベントを支援する「マイシティ高岡若者プロデュース事業」と、文化庁の歴史的建造物群保存地区に指定されている「山町筋重要伝統的建造物群保存地区」を視察しました。

建設水道委員会



綾瀬市での視察状況

期日 五月十九日①、二十一日②
参加者 上田、松本、山下、上杉、高見、寺垣、谷口(秀)

議会運営委員会



大野城市での視察状況

期日 四月十九日①、二十一日②
参加者 本多、両川、佐々木、角谷、河越、谷口(満)、山崎、松本、高見、秋口、三谷、上杉
視察先 ①別府市②大野城市
〔視察状況〕

別府市及び大野城市で、本会議における「一問一答方式」の視察を行いました。別府市は市政施行時から、大野城市は二年前に導入をしていました。

持ち時間や質問方法など、一問一答の運用には若干の違いがありました。対話形式のため「聞いていて分りやすい」「質問の意図が明確に伝わる」など優れている点が多いと評価されていました。

本市議会では、この視察も踏まえながら、実施方法について詳しいルールを決定し、六月定例会から本格導入しました。

トピックス TOPICS



姫路市議会と姉妹都市交流会

五月二十一日(金)～二十二日(土)に、本市議会議員団一行十七名が姉妹都市である姫路市議会を訪問しました。

初日に開かれた意見交換会には姫路市議会議員二十三名が出席。観光振興をテーマに熱心な議論が交わされました。

両市とも滞在型の観光客誘致が課題との認識で一致し、今後お互いに情報交換していくべきとの確認がなされました。

二日目は、姫路城三の丸広場を主会場に行われた、ザ祭り屋台「N姫路」のようすを視察しました。市政モニターが本会議を傍聴

六月十五日(火)に、本市の市政モニターの皆さん六名が、六月定例会を傍聴しました。

これは、モニターテーマの市議会の広報活動についてご意見やご提案をいただくために行われたものです。

皆さん傍聴は初めてとのことでしたが、一問一答制による議論に熱心に聞き入っていらっしやいました。

今回、実際に定例会をご覧になったうえで、市議会だよりや「ネットアンケート」のあり方についての意見をいただく予定になっていきます。

わくわくとっとり事業 中学生が議会事務局で職場体験



職場体験中の高草中学2年 江澤 成仁さん

去る六月二十二日から二十五日までの四日間「わくわくとっとり事業」で、中学生が議会事務局で職場体験をしました。

今回、訪れたのは、市立高草中学校二年生の江澤成仁さん。市役所の仕事が生きてきたか、と話す江澤さんに、初めて経験した議会事務局での仕事の感想を聞いてみました。

見学しました。特に印象的だったのは、職員皆さん一人一人がとても頑張っている感じが伝わってきました。それから、めったにできない経験もありました。それは、たくさん市議会議員さん、それに市長さんや教育長さんにお会いできたことです。名刺もいただきました。議長車や市長車の中も見学できました。これはすごいことだと思っています。本当に短い期間でしたが、仕事の楽しさを感じることができました。この経験を将来に生かしていけたらいいなと思いました。事務局の皆さん、本当にありがとうございました。

全国市議会議長会特別表彰



議場で表彰状を受けとる藤原繁義議員

去る五月二十五日、東京日比谷公会堂において、全国市議会議長会の定期総会が開催されました。

その席上、永年にわたり市政の発展に貢献した功労者として藤原繁義議員が議員四十五年以上特別表彰を受けました。

伝達式は、六月八日に開会した、六月定例会の冒頭に議場で行われ、三谷伝議長から表彰状及び記念品が手渡されました。

※市民の皆様へ

議員各自が暑中見舞いを差し出すことは、公職選挙法の規定により禁止されていますので、ご理解ください。



会派紹介 — その⑥ —

市議会議員は、個人だけでなく会派としての活動にも取り組んでいます。この会派の活動や考え方を市民の皆さんにお伝えるため、シリーズで会派紹介を連載しています。今号は「市民クラブ」をご紹介します。



明治13年頃から鳥取藩の士族69戸が入植開墾をした郡山市を訪問し、議長・助役・安積疎水土地改良区理事長等から歓迎を受ける。(6/30)

市民クラブ

会派の議会質問

私たちは自由を愛し民主主義を尊重するために、昨年の十二月に会派を結成した新しい若い「市民クラブ」であります。市民の皆さんと、自由にかつ達な意見の交換が行えるような会派であります。

私たちの会派は、最近の議会で、次の項目について質問を行いました。

自衛隊のイラク派兵問題。
確定申告の状況と市民税の確保見通し。

会派構成



代表 佐々木 紘一

文教経済委員
議会運営委員
市町村合併調査特別委員



幹事長 森田 紘一郎

総務委員
中心市街地活性化調査特別委員
旧ダイエー鳥取駅南店調査特別委員

市街地経済の低迷化における固定資産税の低減化。
危機管理の在り方。
100人委員会の提言に対する施策。

指定管理者制度の導入。
湖山北郵便局における各種証明書の取り扱い件数。
旧ダイエー跡地利用と行政のワンストップサービス。
観光振興の方策。
鳥取城跡の歩道整備。
山白川の改修計画公園施設のパーゴラ整備。
太陽光発電装置の設置。
国民年金制度の取り組み。
鳥取市の食糧自給

率向上と耕作放棄地の取り組み。
農畜産物の直販店増設。
賀露町内の横断歩道表示と信号機の設定。
膜ろ過の浄水施設のフィルター。
畜産振興対策としての団地造成。
国土法に基づく地籍調査推進計画。
その他について。

懸命の議会活動

そして、市行政に携わる職員
の意識改革と健全な財政運営を
行う中で、市民が主役の市政の
実現と、二十一世紀に夢と期待
が持てる新市の実現に、皆さん
に代わって懸命の議会活動を行
っております。

【市民クラブの連絡先】

☎2033339
(市役所5階会派控室)

次回定例会のお知らせ

9月9日(木)	開会・提案説明
10日(金)	休会(議案調査)
11日(土)	休会
12日(日)	休会
13日(月)	一般質問
14日(火)	一般質問
15日(水)	一般質問
16日(木)	一般質問
17日(金)	一般質問
18日(土)	休会
19日(日)	休会
20日(月)	休会(敬老の日)
21日(火)	質疑・委員会
22日(水)	委員会
23日(木)	休会(秋分の日)
24日(金)	委員会
25日(土)	休会
26日(日)	休会
27日(月)	委員長報告・討論・採決・閉会

この日程は変更になる場合もあります。

あとがき

「一問一答制」が、本定例会から本格導入されました。基本的には昨年の十二月定例会で試行された運用方法での実施となりました。一般質問での論点を分りやすくするとともに、議論の活性化を図る目的で導入された制度ですが、市民の皆さんはどのようにお感じになられているのでしょうか。ご意見やご感想等がありましたら、電話・FAX・メールで、お気軽に市議会事務局までお寄せください。

電話 二〇三三四三
FAX 二〇三〇四九

